



富士橋(建設中)

かけはし

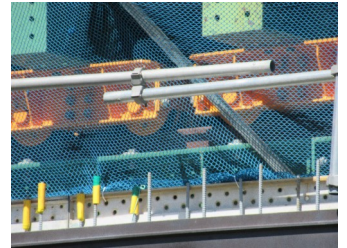
第181号
2022年8・9月号

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町轅沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPではカラー版が御覧いただけます。

<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



橋を動かす為の車輪です。

目次:

令和4年度峡南地推協 山本純司新会長あいさつ	1
峡南地域異校種連携・子育て学習会ご案内	
峡南地域 教育フォーラム開催	2
ことぶき勸学院便り	
田んぼの生き物調査 増穂南小・富沢小	3
「千の風」戦争と平和の 朗読会	4



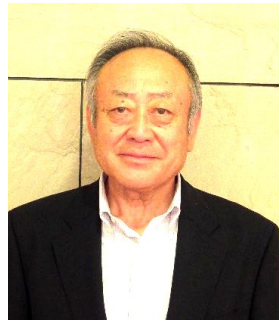
朝晩過ごしやすくなってきました。新型コロナウイルスの流行がまだ続いています。今まで以上に感染予防対策の徹底に取り組みましょう。

これからの季節、夜空が美しく見えます。夜空を見上げて思いにふける。そんな時間も良いものだと思います。

令和四年度

峡南地域教育推進連絡協議会(地推協)

山本純司 新会長 あいさつ



山本純司地推協会長

新型コロナウイルスの感染状況がこの峡南地域でも若い世代にも広がり、収まる気配が見えませんが、去る七月五日に峡南地域教育推進連絡協議会総会が開催されました。情報誌「かけはし」第一八〇号(六・七月号)にて会長・副会長(四名)の紹介をいただきましたが、本年度、役員・理事の皆様、事務局の皆様と共に現代的な課題を踏まえながら峡南地域の教育の連携を進めてまいりたいと思います。

文部科学省のHPに中央教育
審議会教育振興基本計画特別部会の「現代の教育に関する主な課題」という資料があります。その中には、主な課題として「子どもの学力は全体として国際的には上位。ただし、読解力などが低下傾向。学ぶ意欲や学習習慣が不十分。学力の把握・分析・評価・改善・検証の定着が課題」「規範意識の低下」「社会人の学習環境(時間的制約・金銭的な負担感)に課題」「生涯学習の成果を評価する仕組み作り」「幼児教育の無償化」「少人数指導(定数削減)などきめ細かな指導体制の充実」「いじめ・不登校に対する支援措置の充実」「教員の多忙化解消」「地域の教育力の再生として多様な機会の提供」「学校・家庭・地域の多様な人材の育成」「情報活用・情報リテラ

シー・メディアリテラシーの育成」などを示し、これら以外にも多くの課題をあげています。本協議会はこれらを自明のことととらえ、現代的な課題に向けて情報提供を行い、理事の皆様、ご参加の皆様のご感想や疑問点などを集約していきたいと考えております。昨年の教育フォーラム「巨大災害時代と峡南の防災・減災」よかった九四郡、子育て学習会「子どもの心に寄り添って」よかった八六郡、異校種連携「発達段階に合わせた子どもとの接し方」よかった九六郡、本年七月の人権講演会「あなたの近くにもいるヤングケアラー」よかった九〇郡ということで多くの肯定的なご感想ご意見をいただきました(昨年度人権講演会「愛は国境を越えて」はHPで公開)。夢や希望に満ち、未来に向けて歩んでいく子どもたちをしっかりと支援していくため、これからも皆様に有意義な学習機会を提供してまいります。今後ともご参加ご支援ご協力をお願いいたします。

峡南地域 異校種連携・子育て学習会 のご案内

「ネット・ゲーム依存症の現状と対応」

講師：久里浜医療センター 名誉院長・顧問 樋口 進 氏
日時：11月18日(金) 14:00～
場所：身延町総合文化会館(ホール)

※異校種連携セミナーと子育て学習会を統合して行います。

「SDGsって、何？」
 ～家で、地域で、学校でできるSDGs～
 SDGs KAI チームリーダー
 田中実氏

令和四年度嶽南地域教育フォーラムが、八月二四日（水）に行われました。新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により、参集型から、Zoomミーティングを利用したオンラインによる開催へと変更をされました。



講演に先立ち、山本純司会長がSDGsに関する新聞記事を紹介し、「SDGsを理解しながら、色々なことを考え、どんなことが出来るのかを繋げて行動を起こし、それを評価・改善していく流れが必要となってくる」と述べ、「今日の講演を次に繋げて欲しい」「他の人にも繋げて欲しい」「是非この講演を生かして欲しい」と挨拶を行いました。

講師の田中先生は、SDGsについての講演やカードゲームを用いたの実習等で幅広く活躍されています。「急速に広がっているSDGsとは、そもそもどんなものなのか。できるだけ分かりやすく、SDGsの本質や可能性を伝えながら、私たちにできることをみなさんと一緒に考えていきたい」と講演を行いました。



参加者の皆さんは、講演中にリアルタイムでアンケートに答えたり、Zoomのブレイクアウトルームを使用してグループごとの話し合いを行い、その結果をチャット機能を使って共有したりと、オンライン開催ならではの方法を活用して講演を視聴していました。

た。目的として、「SDGsとは何か」「SDGsが生まれた背景」「家で地域で学校でできるSDGs (SDGsゲームの紹介)」の三点を通して、「最終的には皆さんの中で今以上にSDGsが『自分ごと』になって欲しい」とお話しになりました。

詳しい内容については、次号からはし号外でお伝えします。

ことぶき勸学院 便り
 「宇宙と私たちのつながり」

八月三日（水）に青洲高校青洲ホールで、ことぶき勸学院一年生教室を行いました。

今回は、星つむぎの村共同代表の高橋真理子先生が『宇宙と私たちのつながり』と題して講義を行いました。高橋先生は、「星つむぎの村の活



宇宙へのナビゲーター
 高橋先生

動」「星や月を見上げる意味」「その日の星空とその向こうに広がる宇宙」の三点でお話をされました。

先生は、病気や障がい、環境によって、本物の星空を見ることが難しい方たちに、星空や宇宙を届ける「病院がプラネタリウム」という活動を行っています。直接出向く「出張プラネタリウム」以外にも、ご自宅や面会制限のある病院内でも届けることのできる「フライングプラネタリウム」など、星空を直接見られない方に寄り添った工夫もされています。



「八月四日は旧暦の七夕」「夜という時間は、宇宙に向かって窓が開かれる」「星は毎日一度ずつ西の方向へ動く」「八月三日の夜八時に月の方向に見えるのは春の大三角」「時間は月・星・太陽が決めてくれる」「山梨は月を愛でる文化が他の地域と比べ、残っている」等、真っ暗なホールに



美しい音楽と映像が流れる中で講義は進みましました。クイズも交え、星空や宇宙が我々人間に深い関係があることをわかりやすく話されました。勸学院生の皆さんは先生の話に聞き入り、

美しい映像に見入っていました。惑星・銀河を巡る場面では、宇宙の壮大なスケール、そして幻想的な世界に浸っていました。



「宇宙は私たちにとって故郷」「今度晴れた時に空を見上げてください」「星空たちが明日を連れてくる」「明日という日が、皆さんにとって今日よりも良い日でありますように」と話し、最後に先生がこの道を志すきっかけとなったオーロラの美しい映像を鑑賞しました。生徒の皆さんからの活発な質問もあり、今回も有意義な講座となりました。

皆さんも、今夜星空を見上げて幻想的な世界、遠い宇宙に思いを巡らせてはみてはいかがでしょうか。

田んぼの生き物調査

山梨県峡南農務事務所主催「田んぼの生き物調査」は、「小学生や地域住民を対象に、水田周りの生物調査を通し、水田や水路のもたらす多面的機能と保全管理の必要性について理解を深める」ことを目的として実施される事業です。今年度初の試みとしてJA全農やまなしが協力、講師も全農より派遣されました。峡南地域では小学校四校で実施されました。四校の中から、増穂南小学校と富沢小学校の様子を紹介します。

増穂南小学校

七月二日(火)に一・二年生六名が参加し実施されました。当日は朝から小雨が降り、一旦は教室で講義形式の学習に変更されました。しかし、開始時間前には、児童の願いが通じたのか雨もやみ、屋外で予定通り「田んぼの生き物調査」が行われました。児童は屋外で調査ができると聞いてとても喜んでいました。グラウンドに集合して、教頭先生に元氣良く

「行ってきます」の挨拶をして徒歩で田んぼに向かいました。先生を先頭と最後にして歩く姿は、登校班のようで微笑ましいものでし



「行ってきます」の挨拶をして徒歩で田んぼに向かいました。先生を先頭と最後にして歩く姿は、登校班のようで微笑ましいものでし



た。田んぼに到着後、田んぼの勉強と採集のやり方を教えてもらいました。峡南農務事務所・JA全農やまなしの方から、網とケースを一人ずつ手渡され、田んぼの生き物を探しに行きました。「あ、何かいる!」「イモリだ!」「先生!オタマ捕まえた」オタマジャクシ、カエル、アカハライモリ、ヤゴ、タニシなどを捕まえるたびに子どもたちは歓声を上げていました。腹ばいになって採集したり、体育着の膝を泥だらけにしたりと、時間がたつのを忘れ採集に集中していました。

採集後、一人一人が図鑑が配られました。自分が採集した生き物を図鑑で調べ確認しました。

そして、講師の先生が子どもたちの採集した生き物



「田んぼの生き物調査」が実施されました。五年生一五名が、学校近くの田んぼで調査を行いました。当日は、好天に恵まれ、気温が高かったですが、青空と稲の緑がすがすがしい中での学習となりました。はじめに講師の方から、調査方法について説明を受

富沢小学校

七月三日(水)、富沢小学校の「田んぼの生き物調査」が実施されました。五年生一五名が、学校近くの田んぼで調査を行いました。当日は、好天に恵まれ、気温が高かったですが、青空と稲の緑がすがすがしい中での学習となりました。はじめに講師の方から、調査方法について説明を受



けました。砂糖などを入れるような調味料入れに水を入れ、網ですくった生き物を採集するというものでした。調査の際に、稲を踏まないようにという注意も受けていました。調査が始まると、児童は思い思いの場所で行いました。田んぼに入ったり、脇の水路に入ったりして、次々と生き物を採集しまし

た。その都度、「〇〇見つけた!」といった喜びの音が、田んぼに響きました。カエル、ドジョウ、エビ、ザリガニ、カワニナなどが見つかりました。児童の皆さんは、とても楽しそうに、取り組んでいました。採集の後、それぞれが捕まえたものを全体で共有し、生き物の特徴等について学習しました。事前に峡南農務事務所の方が捕まえておいた、チョウやシヨウリヨウバッタについても確認しました。まとめとして、講師の方から、「田んぼはお米を作るだけでなく、多くの生き物の命も育む。ご飯を食べることは、田んぼを守ることに繋がります」といった話をいただきました。田んぼが、豊かな自然を守るために役立っていることを学ぶ機会となりました。

**図書館朗読ボランティア
「千の風」朗読会
「沖縄復帰五十年と山梨」**

身延町総合文化会館において、図書館朗読ボランティア「千の風」による朗読会が七月三十一日（日）に開催されました。朗読をベースに平和の大切さ、命の重さを伝えていきたいとの思いで、毎年行われているものでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、二年間開催できず、三年ぶりの実施となりました。朗読会の後、「記者と語る山梨と沖縄」と題して座談会が行われました。



朗読会に先立ち、笠井京子代表から、「今回、この会を開くことを悩んだ。でも、こんな時だからこそ、平和の大切さを伝える必要はないという思いと、多くの申し込んで頂いた皆様がいるということが背中を押してくれ開催に至った」「できる限りの感染対策をとった。しばらくの間、朗読と座談会に耳を傾けていただきたい」と話し、身延発、戦争と平和の朗読会が始まりました。

また、沖縄復帰五〇年と山梨に関連した新聞記事「『Fujiiと沖縄』第一部 米軍がいた一年」より二作品、高野裕氏作「はっちゃん沖縄戦」を含む計六作品の朗読が行われました。いずれの作品も「戦争とは？」「平和の大切さ、命の大切さ」を訴えかけるものでした。

座談会「記者と語る山梨と沖縄」

高野裕氏（「はっちゃん沖縄戦」著者、前島文彦氏（山梨日日新聞記者「Fujiiと沖縄」担当、江宮隆之氏（作家 富士川町在住）の三人による座談会が行われました。



冒頭で江宮氏は、今の世界の情勢について「二年間この会ができなかった間に日本も世界も変わってしまった」「本日の朗読の全てが、変わってしまった事の原因とも言える朗読であつたと思う」「今日は、命を考えるよい機会を与えてもらった」と話しました。更に、「今日は朗読だけでなく、前島さんから取材を通しての感想を、高野さんからは、作品を通してどの様な事を皆さんに訴えたかったか伺っていききたい」と述べ座談会が始まりました。



高野氏は、「偶然出会った『はっちゃん』。戦争で学友を亡くし、自分は生き残ってしまった。その思いが強い『はっちゃん』が鮮明に記憶して話してくれた事は、家族も知らない事ばかり。話してくれた事実を、その思いを、何とかして伝えて欲しい。歴史の事実を何とか伝えて語り継いで欲しい。二度と戦争を起こしてはいけない。その強い思いを是非本にしなれば」と出版に至った思いを語りました。



前島氏は、「沖縄の本土復帰五〇年を機に米軍基地を巡る山梨と沖縄の関係性を捉え直す。足元から平和を見直したい」と話しました。

また、普天間基地を甲府に置き換えると、「愛宕山の科学館から甲府昭和一〇までの範囲である」とも紹介されました。最後に、江宮氏が「高野氏の作品



は時間軸を捉えていた。前島氏の記事は空間を捉えていた。その二つが上手くリンクした。沖縄の問題は、我々にとって、しっかり考えなければならぬ問題である」「不公平のない、不平のない世界をどうやって構築するか。命を守る」と話した。



【へいわってどんなこと】を朗読した。さんは、今日の朗読会、座談会に参加して「戦争は、絶対にしてはいけない。命は一つ。絶対に奪ってはいけない」「戦争のたくさんのお話を聞かされた」「戦争について、色々勉強することができた」と感想を話してくれました。沖縄の本土復帰五〇年。そして平和が危ぶまれる今だからこそ、改めて「平和の大切さ、命の大切さ」を考える機会となりました。